

# 第46回日本水環境学会年会優秀発表賞（クリタ賞）を受賞して

京都大学大学院工学研究科都市環境工学専攻 水 谷 沙 織

この度は日本水環境学会年会優秀発表賞を授与いただき、誠にありがとうございました。（公益財団）クリタ水・環境科学振興財団の皆様および審査を行っていただきました先生方をはじめ、学会関係者の皆様に深くお礼申し上げます。

近年、生物多様性の重要性が広く認識されるようになり、その保全が強く求められています。生物多様性は様々な生物がお互いに関わりながら豊かな生態系を形成していることであり、保全のためにはその複雑な関係を明らかにし、保全の目標や課題を明確にしていくことが必要です。

琵琶湖沿岸に広がるヨシ原は周辺に住む人々にとっての原風景であるとともに、魚や鳥などの多くの生物の住処となっています。このヨシ群落の生物多様性を守るため、滋賀県はヨシ群落保全条例を制定しています。しかし、琵琶湖全域のヨシ群落の植生の詳細な植生調査は十分に行われておらず、保全に必要な知見は不足していました。そこで、本研究グループでは携帯型 GPS を用いた定量的な植生調査を提案し、琵琶湖沿岸全域の 118 ha のヨシ群落を踏査しました。調査結果から 1 m × 1 m メッシュの詳細な植生図をすることにより、琵琶湖全体のヨシ群落の植生の特徴や外来植物の侵入状況、生育環境条件を明らかにしてきました。また、ヨシ群落の保全や自然再生の目標を示すため、植生の多様性を評価する方法を検討しています。今回の発表では評価方法の一つとして、植物種に評価点を設定することを提案しまし

た。従来の種数を比較する方法や多様度指数による評価では、絶滅の恐れのある貴重な植物も生態系に悪影響を与える可能性のある外来植物も同等に評価されていました。そこで、これらの種の評価に重みづけを行うため、植物種ごとに評価点を設定することを試みました。貴重な植物の得点は高く、外来種は低く設定し、評価する範囲の出現種の得点を合計したものを多様性の評価点としました。その結果、出現種数が多くても外来植物が多い群落では評価が低く、ヨシの植栽によって造成された群落は自生の群落と比べて多様性が低いという結果になりました。

ポスター発表では多くの方とお話することができ、今後の研究を行う上で大変貴重なご意見を頂戴しました。普段の研究の中では気づくことのできない視点からの指摘も多く、ポスター発表ならではのよい経験をさせていただきました。今回の受賞を励みとし、新たな成果を生み出せるよういっそう努力してまいります。

最後に、本研究は本当に多くの方々に支えられていることを申し上げます。手厚いご指導を賜りました京都大学大学院地球環境学堂藤井滋穂教授、同田中周平准教授、広大な面積の植生調査を全面的にご協力いただきました(株)ラーゴ西川博章様に深くお礼申し上げます。また、私が研究に携わる以前から本調査に尽力されてきた諸先輩方、琵琶湖沿岸での調査を共にしてきた研究チームのメンバーをはじめ本研究室の皆様、そして、いつも支えてくれている家族に対し、心より感謝申し上げます。